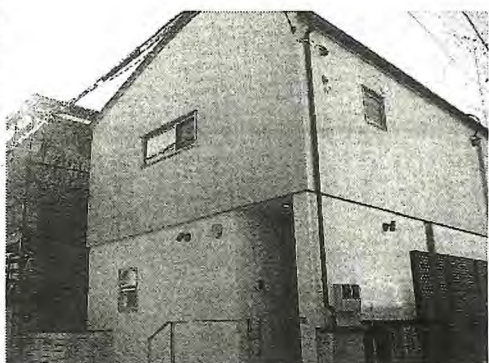


防火地域でも木造で 「高円寺の家」完成

松井設計事務所



新防火地区に建てられた住宅

活用
使用

川調整する手間が省けるため、ビルダー側の高い評価を得ている。

「工場と仕組みまで」を見せさせて売る」といの方針を実践している。

イシシステム協同組合が供給した天竜材を使つた。

火地区」。

これは住宅密集地を対象に都条例で定められたもの。敷地30坪弱に建坪約12坪の2階建て。燃えしる設計による耐火建築物で、外装に45ミ

設計事務所（東京都、松井郁夫社長）、施工はキューブワン・ハウジング（同、細沢龍雄社長）がそれぞれ手掛けた。同建築設計事務所は燃えしる設計の建築は初めてだったため、桜設計集団・安井昇氏の指導を受けた。木材は天竜TSDラ

施主のK氏は「風呂場からライトアップした中庭が見えるようにしてほしい」とい以外は、すべて松井先生にお任せした。建坪からするとおと狭いかと思つたが予想外に広く、使い勝手も良い。大変満足している」と話している。

消臭・調湿に効果的

炭素材仕様のパネル材

テーオー小笠原

テーオー小笠原（北海道函館市、小笠原康正社長）は、悪臭除

去、調湿に効果的な複合炭素材「ゼナック」を用いた内装仕上げ材を開発した。10年間の持続効果を持つ商品と

東京都杉並区の防火地区内にムクの木材を使った木造住宅が完成し、設計士の間でちょっとした話題になつて

住宅が建設できることの参考例になれば」と話す。

「防火地域でも木造は建築事務所の代表者

同住宅は、JR高円寺駅から徒歩約10分の住宅密集地に建設されたK邸。同地は建築基準法とは異なる「新防

厚の木材、タルキに150ミ角を使ったほか、梁も150X240ミなど内外に木材を大量に使い「木材費は建築費の2割程度」という。

設計は松井郁夫建築